

豊洲のお祭り ご紹介



豊洲町会

富岡八幡宮神輿総代連合会 五部会

豊洲睦

豊洲囃子

豊洲



豊洲・まちの歴史



昔々、現在の江東区付近は低湿地で、海上には浮州や島が点々としている地域でした。**江戸時代初期**に埋め立てが始まり、多くの人が住むようになりました。

豊洲地域は1923年の関東大震災以降にさらに埋め立てが進み、**1937年**に「**豊洲**」と**正式に命名**された後は、工業地帯として発展しました。近年は、再開発が進み、住宅地や商業地へと変わってきています。



現在のらぽーと付近



1955年(昭和30年)ころの様子

このように豊洲はまだ新しい町ですが、日本の伝統文化であるお祭りが **もう70年以上**続いています。

毎年8月に開催され、お祭りではお囃子の笛や太鼓を鳴らしながら、子どもからお年寄りまで大勢のみなさんがお神輿をかつぎ、山車を引いて、町をねり歩きます。



豊洲のお祭り



豊洲のお祭りは、「富岡八幡宮(とみおかはちまんぐう)」という神社のお祭りです。お清めと暑さ対策のためたくさんのお水をかけることから「**水かけ祭り**」と呼ばれます。3年に一度の例大祭では、氏子町会の**神輿53基**が連合渡御を行います。「神輿深川、山車神田、だっ広いが山王様」と唄われる**江戸三大祭りの1つ**で、東京の中でも大変大きく有名なお祭りです。



江戸消防記念会や手古舞(てこまい)を先頭に、「木遣い(きやり)」という唄を歌いながら神輿を先導します。



連合渡御では、豊洲のお神輿の前を地元の中高生、大学生が豊洲の大きな旗を持ち、また金棒と弓張提灯(ゆみはりちょうちん)を持ってお神輿の前を歩きます。「露払い(つゆはらい)」と言って、穢れ(けがれ)を払うという意味があります。

豊洲町内では、**毎年8月**に豊洲の子供神輿、大人神輿が**町内を巡行**します。沿道のみなさんからの水掛けだけでなく、水掛けトラックや消防団の放水がお祭りを盛り上げます。

豊洲のお祭り



山車・子供神輿の町内巡行では、豊洲、豊洲北、豊洲西の各小学校や、商店街、各マンションへ行って、お菓子やアイス、ジュースなどをもらいます。



小神輿(5歳～低学年程度)、中神輿(中学年から高学年程度)の2基の子ども神輿で巡行します。小さいお子様は、山車の綱を引いたり、山車の太鼓を叩いたりして楽しめます。

大人神輿も毎年町内を巡行します。沿道のみなさんからの水掛けだけでなく、水掛けトラックや消防団の放水がお祭りを盛り上げます。



豊洲のお神輿を担ごう！



豊洲町会では、お祭りを通じて地域の伝統文化を継承し、人と人との結び付きを深めることでより良いまちづくりを目指していきたいと考えています。

より多くの地域の皆様のご参加をお待ちしております。

※大人神輿を担ぐには、豊洲の半纏が必要です。

豊洲町会にて販売していますので、お問い合わせください。



豊洲の半纏

★豊洲駅前交差点での揉み差しは迫力満点！



★水浴び気持ちイイ！



★豊洲のお神輿はたくさんの接待所が楽しめます！



ワンダフル！

★女性も負けてません！



女神輿区間あります！

★6月・7月には担ぎ方練習会を開催！



深川担ぎをマスターしよう！
お祭りに関する情報もいち早くゲット
できるので、ぜひご参加ください！

*** ご奉納のお願い ***

祭礼行事は皆様方からのご奉納により運営されています。

地域の交流を深め、またお祭りの伝統文化を子供たちに伝えていくためにも、多くの方からのご協賛をお願い申し上げます。

※7月下旬より、豊洲町会事務所にて受付します。

ちょっと息抜き

★富岡八幡宮の氏子町会と、深川八幡祭りの開催エリアについて

深川八幡祭りは、江東区の深川エリアと湾岸エリア、中央区の一部の町で行われています。

湾岸エリアでは、豊洲と枝川ーがお祭りに参加していますが、氏子地域としては東雲、辰巳はもちろん、有明、青海といった広い範囲が含まれています。

※先だって有明に開業した「東京ドリームパーク」の屋上には、富岡八幡宮の分社が御鎮座しています。



★豊洲のお神輿は、お祭り以外にもいろんな催しで活躍しています！



TUBC公式戦のハーフタイムにて
子供神輿がパフォーマンス！



MIFAイベントで
お神輿体験会！



地元の小学校で
お神輿セミナー開催！

富岡八幡宮は御鎮座400年を迎えます

富岡八幡宮について



寛永4年(1627年)に、のちに深川と呼ばれる隅田川の河口の永代島に創建されて以来、400年にわたり深川の発展と共に広く人々の信仰を集め、「深川の八幡様」として親しまれてきました。

そもそも深川八幡祭りとは

寛永19年(1642)、幕府の命により三代将軍徳川家光公の長男(後の家綱公)の誕生を祝して行われたのが始まりと言われています。



「深川八幡祭り」は、神田祭・山王祭と並ぶ江戸三大祭りのひとつです(正式名称は「富岡八幡宮例大祭」)。江戸時代から続く由緒あるお祭りで、勇ましい「わっしょい」の掛け声の担ぎ手に、沿道の人々が水を掛ける「水掛け祭り」としても知られています。

明治に入り、開催が秋から夏に変わったことで、沿道の人々が担ぎ手に水を掛けるようになりました。



富岡八幡宮は御鎮座400年を迎えます

「深川八幡祭り」と「神輿文化」

地域全体が熱気に包まれるこの祭りは、1年ごとに「本祭り」「二の宮神輿渡御」「子供神輿連合渡御」が順に行われるのが特徴です。昨年(2025年)は7年ぶりに神社の神輿である二の宮神輿が渡御し、大いに賑わいました。今年(2026年)は本祭りにあたいます。町の神輿53基が勢揃いする各町神輿連合渡御が行われ、昨年以上の盛り上がりが期待されています。



平成24年8月12日、天皇皇后両陛下(現在の上皇上皇后両陛下)がご参拝遊ばされ、各町神輿連合渡御をご覧になられました。両陛下の行幸啓は富岡八幡宮また深川にとって輝かしい栄誉であり、後世へ永く語り継がれる慶事となりました。

寛永19年(1642)

深川八幡祭りの誕生

幕府の命により、三代將軍徳川家光公の長男(後の家綱公)の誕生を祝して行われる。



寛永20年(1643)

初代御本社神輿の造営と 神輿渡御の始まり

天和2年(1682)

火災で初代御本社神輿が焼失

貞享5年(1688)

二代目御本社神輿の奉納

大野屋寿道氏により二代目の御本社神輿が奉納される。

元禄時代(〜1704)

三代目御本社神輿の奉納

江戸の豪商・紀伊国屋文左衛門によって、三基の御本社神輿が奉納される。



文化4年(1807)

永代橋崩落事件

深川八幡祭りに熱狂する群衆が押し寄せ、永代橋が崩落。

幕末まで神輿渡御の禁令が発される

明治5年、新暦の採用により祭りの開催時期が秋から夏へと移る。地固めのために撒いていたお清めの水が、担ぎ手にも掛けられるようになり「水掛け祭り」が名物に。

明治20年代に入り、文明開化により電線が張り巡らされ、山車の巡行が困難になり、町神輿が誕生する。

明治42年(1909)

神輿連合渡御の始まり

全国の神社に先駆けて、神輿連合渡御が富岡八幡宮ではじまる。



大正12年(1923)

関東大震災で三代目の神輿が焼失

平成に入るまで、御本社神輿がない状態での渡御が続く。

平成3年(1991)

現在の一の宮神輿が 奉納される

佐川急便グループ初代会長・佐川清氏により一の宮神輿が奉納され、念願の復活を果たす。



平成9年(1997)

現在の二の宮神輿が 奉納される



平成24年(2012)

天皇皇后両陛下の 行幸啓

8月12日天皇皇后両陛下(現在の上皇上皇后両陛下)がご参拝遊ばされ、東京大空襲被災者のご懇談の後、各町神輿連合渡御をご覧になられました。



深川八幡祭りの歴史



「氏子ではないから」「担いだことがないから」と、自分とは関係のないものに感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、神輿や祭りの文化は、皆さんが思うよりずっと開かれたものです。

担ぎ手の中には、古くからの地元出身者の他、近年では豊洲や有明など新興住宅地の住民もいます。転勤や引っ越しをきっかけに深川地域に来られ、祭りを見て「担いでみたい」と思い参加した方々です。

深川八幡祭りは、伝統を守りながらも、新しい住民を温かく迎え入れ、地域に根づく「生きた文化」として今も息づいています。皆様もぜひこの輪に加わり、伝統文化とともに担う一人として、未来へとその想いを繋いでいただけたら幸いです。